

研究タイトル：

日本近世における教育思想の研究



氏名： 藤居岳人 / FUJII Taketo E-mail: taketo@anan-nct.ac.jp

職名： 教授 学位： 文学修士

所属学会・協会： 日本中国学会、東方学会

キーワード： 懐徳堂、漢学

 技術相談
 提供可能技術：

- ・中国語
- ・中国文化
- ・日本近世思想

研究内容： 懐徳堂学派における経学思想と経世思想との融合

現在進めている研究は、江戸時代に大坂の町人が設立し、後に官許を得て公教育の担い手となった懐徳堂の教育思想を分析することである。中国・朝鮮と違い、社会的地位が確立されていなかった日本の儒者がその不利を自覚しつつ、にもかかわらず庶民のみならず武士への教育に自己の職務を見出そうと積極性を発揮してゆく様相を明らかにしたい。特に、懐徳堂学派の理念としての経学思想が現実世界に関わる経世思想—その一環としての教育思想—に反映される様相を解明して、日本近世儒教思想史上における懐徳堂学派の思想史的位置づけを再構築することが本研究の目的である。

日本近世思想史上、江戸期の朱子学研究の発展は、重要な画期である。林羅山・山崎闇斎など朱子学尊重の立場から伊藤仁斎・荻生徂徠の朱子学批判を含む古学の勃興、そして、寛政期の朱子学復権に至るまで、多くの研究の蓄積が為されてきた。ただ、江戸期の儒者の思想を探るうえで、本来、その経学研究が重視されるべきであるにもかかわらず、伊藤仁斎・荻生徂徠に関する研究を除けば、その研究成果は意外に多くない。私の研究は、懐徳堂学派の中でも膨大な資料の蓄積がある中井履軒の経学研究を基礎として、学主として実際の懐徳堂の運営に多大な功績のある中井竹山の経世思想を取り上げて、日本近世教育史・日本近世社会史等の研究も視野に入れつつ、経学思想と経世思想との研究を融合したうえで、日本近世儒教思想史の観点から、朱子学理解の深化の様相を解明するところに学術的な特色・独創的な点がある。

懐徳堂の朱子学に関する研究としては、すでに陶徳民『懐徳堂朱子学の研究』や Tetsuo Najita ; Vision of Virtue in Tokugawa Japan — The Kaitokudo, Merchant Academy of Osaka (邦訳：『懐徳堂 — 一八世紀日本の「徳」の諸相』) 等があるが、朱子学の中心的資料である『四書集註』に見える朱子の思想との綿密な比較のうえで懐徳堂の経学思想を分析した研究は未だ多くない。また、教育思想の立場から日本近世思想史を検討した研究としては、辻本雅史『近世教育思想史の研究』等があるが、教育思想史の視点から寛政改革時における懐徳堂の社会的立場を論じる観点は未だ不十分である。私の研究では、中井履軒の経学思想の理論的裏づけを基礎として、その経学思想が懐徳堂の社会的立場に反映される様相を、教育思想史の視点から明らかにする。それによって、近世日本儒教思想史上における懐徳堂学派の思想史的位置づけを再構築する。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	